

ジェンダー研究所

2019 年度事業報告書によせて

グローバル女性リーダー育成研究機構長／理事・副学長 佐々木 泰子

ジェンダー研究所は、創立以来 40 有余年の実績をさらに発展させるべく、2019 年度も、先端的研究プロジェクトの推進、国際シンポジウムや学術セミナーの開催、特別招聘教授プロジェクト、学術雑誌の刊行、教育プログラムの実施、研究所成果の発信等に精力的に取り組みました。年度終盤からの新型コロナウイルス感染症蔓延により、いくつかの事業を延期せざるを得ない状況となったことは残念でしたが、いずれについても、日程や形態をオンライン形式に改めての実施が検討されており、その開催が待たれます。

また、2019 年は、関係者の訃報が続く悲しい年でもありました。本研究所の前身で、日本初のジェンダーに関する総合的・国際的な研究を行う機関として 1996 年に設立されたジェンダー研究センター初代センター長の利谷信義本学名誉教授が 8 月に、そして 2 代目センター長の原ひろ子本学名誉教授が 10 月にご逝去されました。利谷先生は、法学者としてのお立場から「男女平等の是正は、女性のみならず、男性にとっても必要である」として男女平等社会の実現に向けてご尽力され、初代センター長としてセンター発展の礎を築かれました。原先生は、1979 年にお茶の水女子大学家政学部に着任されて以来、本学ならびに日本における女性学・ジェンダー学の教育および研究の発展に多大な貢献をされました。原先生から刺激を受け、それを糧に本学から社会に活躍の場を広げた卒業生も少なくありません。また、日本学術会議をはじめとする学術組織の活動でも、日本における女性研究者の地位向上に力を注がれました。ここに改めて哀悼の意を表し、襟を正し、先生方のご功績を継承し、さらに発展させる研究、教育実績を積み重ねていく決意です。

そのような中、年度末には、2015 年 10 月以来、4 年半にわたり所長としてジェンダー研究所のイニシアチブをとられた石井クンツ昌子先生がご退職されました。この場を借りて、先生のこれまでのご貢献に感謝申し上げますとともに、これからも忌憚なく御叱正を賜りますようお願い申し上げます次第です。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、大学における研究、教育の現場に大きな影響を与えています。如上のとおり、ジェンダー研究所における国際的教育研究拠点形成事業も例外ではありません。しかし、このような状況だからこそ、創意工夫と研究意欲を発揮して、これからの事業展開に臨む所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

ジェンダー研究所2019年度の活動を振り返って

ジェンダー研究所長 石井クンツ 昌子

早いもので、2015年に本学にグローバル女性リーダー育成研究機構が開設され、機構の一つの柱としてジェンダー研究センターがジェンダー研究所に改組されてから5年が経ちました。以降、毎年、様々な形でジェンダーに関連する事業や研究を行ってまいりました。2019年度も、所長、専任教員、研究員、研究系スタッフ、事務系スタッフが協力して研究プロジェクト推進や国際シンポジウム等の開催に積極的に取り組みましたことをご報告いたします。

本研究所のメインの事業である特別招聘教授プロジェクトでは、2018年夏にお招きしたノースカロライナ大学のバーズレイ教授に、非常に有意義な国際シンポジウムやIGSセミナーを開催していただきました。バーズレイ教授には本学の大学院生の授業を担当していただき、更に論文指導や英語の指導をしていただくなど、大変好評でした。ジェンダー研究センター時代からタイトルを引き継ぎ刊行している『ジェンダー研究』は、「安全保障とジェンダー」を特集とした第22号を発刊し、国内外から高い評価を得ることができました。

昨年度に報告しましたノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センターとの共同プロジェクト「ジェンダー平等/ダイバーシティ：ノルウェー・日本共同研究」は2019年4月に開始しました。このプロジェクトの一環であるMobility（研究者及び院生の交流）事業では、本学の博士課程院生と修士課程院生各1名が昨夏にNTNUのあるトロンハイムに滞在して、NTNUの教員のアシストを受けて、自身の研究のための情報収集をしました。また、同年9月には石井クンツ教授（所長）、申准教授（専任教員）、小玉教授（運営委員）、吉原RFがNTNUを訪問して、ワークショップやミーティングに参加し、出版予定のAnthologyについての詳細な打ち合わせ等を行ってきました。お互いの研究や今後のプロジェクト計画などについてより深いレベルでの相互理解ができ、同時に、NTNUの研究者の素晴らしいホスピタリティに触れることができた1週間の滞在でした。これらの事業の他にも、IGS所属の研究者の皆様にはご自身の研究を進めていただきました。また、本研究所の歴史の記録を保存するための女性文化資料館創設以来の事業記録電子化も着実に進んでいます。

毎年、様々な国際シンポジウムを開催してきましたが、2019年度も3つの国際シンポジウムと10以上のIGSセミナーと研究会を開催することができました。の中には、トランスジェンダーなど時宜を得たトピックに関する内容のシンポジウムもあり、一般の方々を含む多くの参加者からいただいた感想からも、貴重な学びの機会を提供させていただいたと確信しています。

本報告書を通して、2019年度のジェンダー研究所における事業の詳細をご理解いただければ幸いです。本研究所事業の充実は、所員の努力のみによってではなく、学内そして学外の各方面からの協力を得て実現されています。ここに、改めまして、心からの感謝の意を表します。